平成２５年度第５回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成２６年１月２２日（水）

場所：鶴岡市朝日庁舎　大会議室

平成２５年度　第５回　朝日地域審議会　会議録

○　日　時　：平成２６年１月２２日（水）　午前９時３０分から午前１１時４５分まで

○　会　場　：鶴岡市朝日庁舎４階　大会議室

○　出席委員：敬称略・五十音順

安達幸恵、五十嵐大輔、上野博喜、大滝清策、工藤悦夫、今野継子、佐藤泉三、

佐藤正、佐藤照子、佐藤宥男、佐藤芳彌、清野清、松本壽太、渡部嚴、渡部小枝

* 欠席委員：敬称略・五十音順

井上時夫、齋藤源之助、清野一女、難波一之、宮﨑康史

* 市側出席職員

【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、総務企画課主幹、

産業課主幹、南部税務事務室長、南部建設事務室長補佐

総務企画課職員

【本所】地域振興課主査、企画調整課専門員

1.　開　　会

　　進行：小野寺せつ総務企画課長補佐

2.　あいさつ

○　佐藤芳弥会長

○　宮崎清男朝日庁舎支所長

3.　協議

○　佐藤芳彌会長

協議に入る。（１）の鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について、事務局の説明を。

* 企画部企画調整課　長南専門員

後期基本計画策定について説明

○　佐藤芳彌会長

事務局から後期基本計画の策定ということで説明いただいた。具体的な朝日地域の振興については後段で意見をいただくことにして、基本的な鶴岡市の方向があって朝日地域があるので、大きな方向でこうあればいい、こうあって欲しいという意見、提言をいただきたい。

○　佐藤正委員

一つは、総合計画は１０年計画で今年度で半分が経過するが、その進捗状況、進展状況をどう押さえたうえで後期の見直しを考えているのか。

また、インバウンド観光など、多くの横文字が出てくるが、普段使わない言葉については注釈をつけてもらいたい。

婚活支援について、全国で街コンなどもニュースで耳にするが、あいにく鶴岡では計画もないようだ。商店街の活性化にもつながると思うので、ぜひそういった具体的な対策もしてほしい。

森林文化都市については朝日地域に一番関わりがあると思うが、どうも所得につながるというか産業になるというか、そういった部分が見えないので、理想としてはとてもいいのだが、おもしろくないというのが本当の話で、もう少しカネになるような方針でないと、住民は元気にならないのではないかと思った。

車座ミーティングについて、朝日地域駐在員連協では毎年１回くらいは市長と直接、質疑したいと思っていたが、昨年は選挙もあってダメだったし、人気があって２年に１回くらいしか無理ではないかという話もあるし、範囲は小さくても構わないというふれ込みだったが、１年に１回くらいは各地域であまり小さくない範囲、例えば自治会の団体と機会を持ってほしいというのが本当の気持ちだ。

それから、主な施策の中に行財政改革とあるが、いつも言っているとおり、昨年の提言書のとおりで全部、税も含めて公共料金もその他もみんな一律にされてしまうと、そもそも合併前はそれぞれに地理的な加算があって交付税も余計に来ていたわけなので、全く一律にされると必ずサービスの部分は低下していくわけで、そういった対策なしに行財政改革だといわれるとカチンとくる。

そういう意味では、「４地域振興のビジョンに基づく施策」の前文に、「合併後に中心部のみに機能が集積し、周辺部は活力をなくしていくのではないかということが懸念された」とあり、そのとおりだと思うので、もう少しそういった配慮をしないと、本当は地方交付税制度のようなもので守られていた地域が合併をしたらスパッと外されてしまって、ならされた分だけ行政サービスが低下するという現象が必ず出てくる。除雪していればいいとか、そういう問題ではないと思うので、そういう部分を前提にしないで行革の推進などといきなり言われると、気に障ってしまう。

少子化対策では、主な施策に４項目ほど載せてあるが、少子化対策と言いながら、実は保育料の値上げだとか保育園や学校の統廃合だとか、逆行することが多すぎて本気で考えているのかと思ってしまう。一番肝心なのは待機のない安い保育環境、若い世帯向けの格安の住宅、郊外地のための高等学校通学助成、学校給食の無料化など、そういった部分が総合的に出てこないと、とてもじゃないが子どもをいっぱい産んで育てるという気持ちにはなれないと思う。

中山間地域の農業活性化については、ずっと前からの課題で、今となっては簡単な話ではなく、農地はほとんど荒廃し、果たして農地に戻せるのか大変深刻な状況になっている。重ねてＴＰＰもあり、減反政策の見直しも始まって、具体的に何から手を付けるかすぐには思いつかない。計画に載せているからには、なにか対策を考えているのだとは思うので、具体的な考えがあったら聞かせてもらいたい。

森林環境の保全の中にナラ枯れ被害の拡大防止とあるが、今頃何を言っているのかと思う。おそらく１５年以上前から朝日地域はナラ枯れで全部やられた。今残っているのはわずかに生き残っている木だけで、もう薪にもならないし木炭の原材料にもならないし、そういう状況まで追い込まれている。今更これがなんだと思った。最上は最近出てきて、いろんな対策の話もニュースで聞くが、ここ朝日に限って言えばそんな調査や予防なんていう段階ではなくてすべて終わったという段階だと思っているので、ただ項目を挙げるだけでは意味がないと思う。

農業の関係でもう一つ。今、盛んに６次産業化と言われているが、１０年前だったらまだ元気があって大丈夫だったかも知れないが、家庭内農業なので人手は限られており、これから加工まで手を出してどうのこうのという活力、元気はもうない。一生懸命言っているのは分かるが、例えばこれからやるとすれば農産物を生産する人は生産する人、加工専門にする人はする人、というように考えないと、今頃加工も生産もと言われても無理なのではないかと思っているので、考え方も聞かせてもらいたい。

* 佐藤芳彌会長

非常に広範囲な視点から質問をいただいたが、後でまとめて回答いただくことにして、関連して何か意見があればお願いしたい。

○　佐藤泉三委員

地域の可能性を伸ばす創造文化都市で、地産地消や農工商連携云々とあるが、特に鶴岡市は人口が減少しており、庄内全体でも山形県全体でも人口が減少し、市場規模は小さくなっている中で、こうしてやってみてもたかが知れていると思うので、たとえば首都圏に進出するなり外国に進出するなり、そういった方向も一言、ここに載せておくべきではないか。

それから、全般にわたってさまざま、いいことが書いてあるが、それを実行するために市民の負担はどのくらい掛かるのかということが一言も載っていない。江戸時代だったら四公六民で年貢は四割、それでも生かさず殺さずの生活だったわけだが、現在は税金、租税公課など全部計算すると自分の収入に対して７割くらいまで持っていかれる。江戸時代よりもさらに深刻な時代だ。これでは経済が活性化するとか個人消費が伸びるわけがない。そこをもっと、市民の立場で一言でもいいので載せてもらいたい。

それから、日本全国どこでも自治体はこのぐらいの文章で同じくらいは書くと思う。鶴岡市独特のものが何一つないと思った。例えば沖縄県では７割も基地負担をしているが、この際鶴岡市も基地のひとつでも持ってくるとか、そのくらいの奇想天外な発想が必要ではないか。

○　渡部小枝委員

温海地域の「地域振興の方向」に日本海東北自動車道のことが書いてあり、後々には新潟県につながると思うが、今まで月山新道を通っていた車も向こうを通るようになったと感じることがあって、交通量調査をしてみないとわからないと思うが、うちの近くの国道１１２号を通る車の音が静かになり、後ろの高速道路を通る台数も少ないと感じている。

車の流れ、出来ていく高速道路、交通機関によっても影響すると思うが、櫛引のパーキングエリアをもっと寒河江のサービスエリアぐらいに拡大して、高速道路を通ると国道県道の商店が影響を受けると言うが、逆にそういう商品を全部地場の商品としてサービスエリア・パーキングエリアにどんどん運んでもっと同時に売っていけるようなＰＲをしたらどうか。

高速道はつながっていけば便利で、何か目的がない限りは、下道にいったん降りて、また乗るということもないと思う。私も実際、栃木あたりに行くときには東北自動車道であっても新潟回りであっても高速を降りることはなく、食事でも給油でもトイレ休憩でも高速道路から降りないで利用するので、それを逆手にとって、寒河江のサービスエリアで給油できなかった方が庄内のサービスエリアではどこでも給油ができるとか、小さいお子さんを連れたお母さんたちが利用しやすい更衣室付のトイレがあるとかバリアフリーの施設ですごく広いとか、何か付加価値をつけて湯殿山のインターチェンジなど、いろいろなところにもっと攻める形でいろいろな商品を置いたり、ここ独特のサービスエリアで力を入れていったらいいのではないか。

もう一つ、自然と共に生きる森林文化都市になるのかと思うが、夏の間は元気に畑をしたり山にキノコなどを採りに行っていた年配の方たちも、冬はどうしても家にこもりがちになって、日中若い世代が働きに行って家を留守にして会話する人がいないとか、どうしても一人だと簡単な昼食で済ませてしまうとか、寝たきりになるほどではないが、家に一人にしておくのは心配だという方がいると思う。

足腰が痛くて玄関にお客さんが来ても出られないとか、そういう状態の人もいると思うが、せっかく地域ごとに公民館があるので、冬の間だけでも集まって昔ながらの冬仕事というか、お金になる仕事をしながら日中を過ごすということを進めていったらいいのではないか。

特別な６次産業といっても、設備投資をすると投資した分を回収して利益が出るまでも大変だと思うし、始めるには佐藤委員からもあったようにエネルギーが必要だと思う。秋は包丁さえあればできる干し柿つくりだとか、冬であれば昔ながらの藁仕事だとか、１枚１０円でも２０円でもいいので学校で使う雑巾を縫うとか、３種類から４種類くらいの内職の仕事を用意して、お茶を飲みながら世間話をするだけではなくて、手を動かして昔のおじいちゃん、おばあちゃんが囲炉裏端でしていたようにわずかでもいいのでお金になる仕事をする。その収益で公民館の灯油代を賄って、もっともっと収入になるような内職であれば、そのお金で除雪を頼んで誰かに雪下ろしをしてもらうとか、人の手でないと加工できない山のものもいろいろあると思うので、小さいところから始めていったら、高齢になっても自分があてにされる、自分が何か任される仕事があるとか、今日自分が行くところがあるとか、そういう気持ちもすごく大事ではないかと思う。日中一人ではなくて、暖かいところで話をする相手がいて安全に何かができるということになれば、生きがいにつながって認知症の方も減るのではないか。うちにも米寿になる年寄りが２人いるが、手を動かしていると楽しいと言う。テレビをゆっくり見ているときもあるが、毎日見ていると飽きてくるものなので、何か仕事を頼まれると、生きがいを感じたり充実感も得られると思うので、そんなに無理にならない仕事で始めていったらいいのではないか。

○　佐藤芳彌会長

いろいろ意見をいただいた中で回答が必要な部分もいらない部分もあると思うが、後期基本計画は当然、前期の評価とかいろんな精査があって後期につなげる、その見直しをどうやったかという一番大事な部分の質問があったので、その点を最初に答えていただきたい。

○　企画調整課　長南専門員

総合計画後期基本計画策定の最初の段階で、庁内の各事業担当課において前半５ヶ年部分の基本計画について、どのような実施状況だったか確認の調書を取りまとめて、各基本計画に挙げた事業の進捗状況を確認したうえで、そこを土台にして最初の素案の基となるような事業担当課からの後期基本計画の案を策定したという流れになっている。

その調書、資料も膨大なので、審議会等には提示していないが、最初の庁内の検討段階において前半５ヶ年部分の反省を生かして後期５ヶ年にどういった施策を行っていくか検討を行った。

○　佐藤芳彌会長

　いろんなカタカナというか英語というか我々もそんなに理解しないで受け止めている部分もあると思うが、新しい語句や分かりにくい語句には注釈をつけていただきたい。

もう一つ、少子化について婚活も含めて大きな課題になっているが、榎本市長が当選したときに一番に、「子育てするなら鶴岡市」といった責任もあるので、そこをもっと強く打ち出そうという意見だと思うので、そのへんの取り組みについて。

○　企画調整課　長南専門員

注釈については、今回の資料は素案であり、完成形については前期の基本計画と同様にページの右側に、聞きなれない言葉、専門用語あるいは横文字について注釈をつけるような形で配慮したいと考えている。

少子化については、それ以外の質問にも若干関連するところがあるかも知れないが、この資料ではルネサンス宣言の部分は箇条書きになっているが、最終的にはこれを詳細な文章化する段階で、書き足りていない項目に関してはもう少し施策の部分も細かくふれたいと思うし、後期基本計画は５年間のフレームだが、なお具体的な実施する細かな施策については、これに基づいて毎年見直しを行う３年間の実施計画を定めるので、その中では今、発言にあったような意見等も踏まえて、少子化対策をはじめとした重要な施策についても細かな施策を対応していきたいと考えているし、いただいた意見については各専門委員会の担当や、審議会にも伝えたい。

○　佐藤芳彌会長

農業の問題で、森林文化都市も産業を生かした農業につながるわけだが、地域の活性化を生かした地域を生かす農業のあり方みたいな形で、大きな方向で何かあれば。

○　企画調整課　長南専門員

先ほど森林文化の部分で、所得につながるものが見えないという意見があったが、林業を取り巻く環境は確かに厳しい状況にあるのはご承知のとおりだが、その中でも民間も関連した動きとして今まで切り捨てられていた杉の低級材あるいは枝葉の部分について、森林バイオマスとして活用して発電するという動きも出ており、国の施策も利用間伐に対して助成を出すという形で、今までは切り捨て間伐であったものを、利用間伐を推進する取組み、市でもそうだが国全体でもそういった取り組みが進められている。そういった形で利用間伐が進むことで、そこで発生する利益が森林所有者に還元する形で、森林の再生産意欲を持つことができるような取り組みを進めていきたいと考えている。

○　佐藤芳彌会長

広い視点で鶴岡市だけではなく日本、世界に目を向けた対応、高速道路の活用も含めて、広い視点での取り組みについて。

○　企画調整課　長南専門員

その意見もごもっともだと思っており、それについてもルネサンス宣言に箇条書きになっているが、審議会専門委員会開催中という状況もあって、最終的に箇条書きの部分を文章化した原稿を作成中で、その原稿では海外や首都圏等への販売、交流といった内容も踏まえた形で文章化する方向性で内容を最終調整している。

○　佐藤芳彌会長

高齢化も進んでいるので、高齢者を生かすという意味で収入を得ながら高齢者が集まって、お互いに協力しながら生活していくという方向付けもしっかりやってほしい。

最後に、行財政改革もかなり強く厳しく進めているが、強く進めると割と僻地に影響がある。現在は旧朝日村の状態で交付税が算定されており、それも踏まえた行財政改革のあり方みたいなこれからの方向性について。

○　企画調整課　長南専門員

　行財政改革については、なかなか難しい問題で、これから交付金が減らされていくという中で見直しを進めていかなければいけない難しい課題を持っているわけだが、そういった見直しの中では、意見にあったとおり旧町村が全部泣いてしまうということではなくて、調整をする中でも地域間の昔の差をどうしても縮めなければいけない部分は出てくるわけだが、どこかの地域が全面的に泣いてしまうということがないように、そこは慎重に配慮したうえで調整が必要だと思っているので、いただいた意見を行財政改革担当にも伝えたい。

○　佐藤芳彌会長

市長の車座ミーティングについて、目玉事業としてかなり積極的に取り組んだ経過もあり、この間の提言のときも市長には、委員の意見をまとめて１回くらいは直接委員の意見を聴く機会をぜひとってほしいということも言ってきたし、車座ミーティングは日程調整もあるが、かなり対応してくれると思うので、それぞれの立場で実施できるよう調整してほしい。

○　渡部嚴委員

本市を取り巻く状況というところが前段にあり、やがて５２年には１０万人を割ると予想されている。人口構造の変化や人口の減少が経済産業その他に大きな影響を与えるとともに、地域コミュニティの崩壊や地域活力の低下、それから行政サービスの低下などにつながる懸念、これらが本市の対策の大きな課題であり、非常に重要なことだと思う。

コミュニティ化の問題については、第１節に「互いに顔が見える地域コミュニティづくり」とある。鶴岡市内のように従来から各地域がコミュニティ化されている部分については地域連携、あるいは学校も含めて防災や福祉など、お互いにいい関係をつくっていくということは当然のことではあるが、朝日地域では将来、冒頭にあったことが非常に懸念される。

第１点は体育施設、あるいは社会体育関係の指定管理者の導入、やがては現在の公民館体制も指定管理者への傾向にあるわけだが、ある意味ではやむを得ない部分もありながらも、地域コミュニティの維持という面で、これは指定管理者と行政の問題ではなくて、行政と市民の問題だと私は捉えている。どんな市民像を描いているのか、行政が指定管理者に対してこういうことをしたいということを丁寧にやっていくべきだろうと思う。

各地域の課題について、地域ビジョンの中で新しく設けたということは非常にいいことだと思うが、地域機能が中心部に集積されて周辺部が活力を失いつつあるのではないかという懸念もある。ここに書いてある通りだと思うが、安心して生活が守られるように前に向かって明るい希望が見える形にしていかなければならない。

その中で今、指定管理者制度が地域にとって大きな課題だと捉えている。これが進行すると果たして２、３年後にはどうなるのか、地域の担い手が公民館関係も自治会の役員も含めて担い手が非常に不足しているが、地域を守っていかなければならない。行政と市民と地域が一緒になって総合力を発揮していかなければならないと思うが、それは地域のビジョンに基づく施策の中で各地域の「これからの方向性」に位置づけて、大きく謳うべきではないか。

地域コミュニティづくりは、私たち朝日地域だけではない。今年から藤島地域でも活動センター化すると聞いているが、コミュニティの問題については大きく取り上げて、どのような構想のコミュニティづくりを地域とともにやっていくかということを掲げて継続してやっていかないと、一人ひとり地域づくりも含めて、いったん組織ができたからといっていいものではないと思うので、今は移行の時期なので大きく謳ってほしい。

○　佐藤芳彌会長

地域づくりの中でコミュニティの果たす役割は非常に大きいわけで、朝日地区も含めてコミュニティのあり方、自治会も含めた過渡期というか、大きく方向づける時期なので、その方向性をどうとらえているかという質問だと思う。

○　企画調整課　長南専門員

　１点目は社会体育施設の指定管理を丁寧にという趣旨の質問だと思うが、当然市から指定管理制度に移行するというのは、市民の利便性をよりよくするためという観点で行っている部分でもあるので、その指定管理にあたっては仕様書を作成するとともに、複数の団体の申請があれば、その中で審査してより良い指定管理をしていただくようなところにお願いをするという形になると思うし、その中でもより地元に根差した団体から管理してもらえることが一番ではないかと考えている。

地域コミュニティの問題に関しては、大変な重要な課題と認識しており、どこに掲載するかということもあるが、資料１の２ページ、大きいタイトルとして２の「本市を取り巻く状況」に状況分析に関してまとめたので、地域コミュニティの具体的な対応に関してはここでは記載がないが、いただいた意見については分野別の施策の部分で、重要な課題ということでふれさせていただきたい。

○　渡部嚴委員

　コミュニティ化について、旧市内については従来からその方向だったことは十分承知しているが、旧町村については今新たな形で動き出しているわけで、市街地と人口減少の激しい地域、散在地域を比較すると、実施したあとの効果、市で狙う効果、市民像のというものもかなり違うと思う。今後、よい地域のコミュニティを作っていくためには、どういう形であるべきかということ、各地域の歴史・文化、それぞれ違う中で、市としての全体的にコミュニティ化の推進を大きく掲げてやろうとしているわけなので、各地域の施策の中にも全体の地域の振興施策の中にも大きく位置づけて、ただ移行すればいいのではなくて、どういう形の市民像を作ってもらいたいのかということを市民に話して、それに合った指定管理者を選んでもらうという方向だと思う。

指定管理者と行政の問題ではなく、市民と行政の問題だと捉えているが、かなり地域が変わってくるのではないか。どういう方向に変わっていくか非常に読めないということもあるが、ここで大上段に掲げている安心して暮らせる地域、お互いに信頼できる地域コミュニティを作っていかなければならないと思う時に、もう少し力を入れていかないと地域崩壊につながっていく可能性も全然ないわけではないので、そのへんを十分考えて、各地域が健康でなければ市全体が健康にならないわけなので、足下をきちんとしていくべきではないか。

○　企画調整課　長南専門員

補足になるが、これは素案という形で主な施策が箇条書きになっている部分を最終的には文章化する作業中であり、第１節の「互いに顔が見える地域コミュニティづくり」の主な施策で箇条書きしているところで、（２）であれば「住民自治活動の拠点、コミュニティセンター・自治公民館等の機能拡充」、「住民の能力を引き出し、地域の中で支えあえる体制づくりの推進」、「単位自治組織の機能を補完し想像的な地域づくりを推進する広域的な組織作りと支援」など、時代の変化に応じた自治組織活動の見直しや負担軽減に向けた取り組みの推進という形で箇条書きで記載される部分について、いただいたような意見の内容を補完するような形で詳細な文章化を検討していきたい。

○　佐藤芳彌会長

コミュニティのあり方は、協議（２）の朝日地域振興計画にも影響する部分なので、ひとまず後期基本計画に向けた意見はこれで打ち切り、次に移りたい。

（２）の朝日地域振興計画（案）について説明を。

○　総務企画課　土田総務地域振興専門員

朝日地域振興計画（案）について説明

○　佐藤芳彌会長

朝日地域振興計画（案）ということで説明をいただいた。地域審議会で委員からいただいた意見もいろんな形で反映されていると思うし、今の説明を受けてさらなる意見、質問があればお願いしたい。

○五十嵐大輔委員

総合計画に関しては素案だということもあるが、図や絵チャートで彩りを豊かにしたり、漫画を導入したり、若い人が見ても見やすい基本計画書にしてほしい。章と節に分けて書いてあるところはたくさんあるが、どこかの章の何節を有効に活用するために、ほかの章のここと連結するということも書いてもらうと、横断的にいろいろできるようになると思うので考えてもらいたい。

朝日地域振興計画と後期基本計画の文言を、合わせて表現したほうが具体的につながって計画を立てやすくなるのかなと思ったので、文言をすり合わせるような書き方をするのもいいと思った。

庄内自然博物園構想に関して、“ほとりあ”が既にできているので、アマゾン自然館が今後、空き家のようになるのであれば、そこも“ほとりあ”と連携した形で作るとか、具体的に取り入れられるようにしてほしい。

「振興ビジョンに基づく施策」とあるが、前期からどこを見直したのかということも、ちょっとだけ文言として書き込んでほしい。

個人的にいろんな活動をしているが、地域振興に関わる活動を民間、個人レベルで行っている人もたくさんいるので、行政がスタート地点にあるものも大切だが、民間がスタート地点にあるものに関して支援を拡充できるような施策をもっと盛り込んでほしい。

第３章に関して、鶴岡まちづくり塾全体会でも総合計画に関して発言する時間があったが、朝日グループでは、保育園、小学校が統合し、保育園の段階から大泉の子どもも大網の子どもも朝日の中央に行くと、どうしてもその地域特性・個性が失われてしまい、地域に対しての誇りも少しずつ減ってしまうと思うので、大網、大泉、本郷など各地域の誇れるものを見失わないような教育をしてほしい。統合は決まったことなどで今さら戻すことはできないが、そういった取り組みをしてもらえれば、少しでも対策が取れるのではないのかと思うと提言した。

また、羽黒、藤島、鶴岡のグループでは、雇用対策を強く訴えていたが、雇用を求めるだけではなくて起業する精神をもっと支えるとか、育成する取り組みをもっと強く文言として打ち出してほしいと発言させてもらった。何年か前、朝日地域で日中、火事が起きた時、消防団員が谷口・越中山の班に自分一人しかいなくて、若い人がどんなに消防団に入っていても、そこで働いていなければ集まれないので、若者が朝日の中で働ける環境を作るためにも、起業して若者が朝日に滞在できる環境が大切だと思う。

景観形成について、自分は小規模ながら少量多品目の農産物を作っているが、ここに書いてあること以外にも地域での大規模なものではなく、小規模な農業や山の仕事で作られてくる景観というのはたくさんあるので、農業を使った景観形成を生かすということを書き込んでほしい。

治水と市土の保全で、河川の整備、砂防全般について、いま最上小国川ダムの問題がよく新聞やニュースに出てくるが、河川の整備とか砂防施設の整備とか、整備、整備、整備ばかりで、何でもかんでも工事すればいいのではないかと捉えられてしまってもおかしくない。小国川ダムでは専門家・大学教授が１２０名くらい連名で「ダムだけではだめなんだ」と訴えているが、朝日も河川の工事に頼らず、人間の手で農業や林業で治水を守っていくような文言を盛り込んでもらえるといいと思う。

朝日地域振興計画に関しては、森林の恵みにこだわった農林産物の生産とあるが、具体策になると山ぶどうと山の恵みに限定される。具体的な展開方策の（１）－１に山ぶどうとあるが、ほかにも朝日にいろいろな農産物がある中で、山ぶどうに限定すると農協に山ぶどうを出している人しか関わりがなくなるので、確かに農協が力を入れて作っているものなので大事だとは思うが、ここは加工品に特化した文言にして山ぶどうやほかの産物としないと、これだけでは支援する方向性が極端になってしまうのではないか。正直あまり山ぶどうという文言は入れてほしくない。

再生エネルギーに関しても農業とつなげてもらいたいのだが、北欧を中心として今、農家が森林を多く保有している地域では、マイクロ水車とか小規模水力、バイオマス、いろいろなものを使って農家が発電をしており、日本でもそれをまねて増えている。実際に酒田でも、すでに行っている農家もあるくらいなので、朝日で農業振興と並行して農家が再生エネルギーを作ることによって収入を二重で作ることができるようにするともっと生活基盤が豊かになると思うので、そこの連携を図れるような文言にしてほしい。

六十里越街道について、行政に関わらず出羽商工会でも八方十口なんかも行っており、①、②に書いてあることなどは、すでに八方十口で何回も会議を重ねて大蔵村や西川町、庄内町と連携しながら活動しているので、出羽商工会の八方十口プロジェクトと連携して一緒に考えていけば活動の幅が広がるのではないかと思った。

「人を呼び込む観光システムを構築し」とあるが、人を呼び込む観光システムという表現はすごくアバウトなので、滞在型農家民宿や週末滞在、インバウンドなど海外誘致のやり方だとか、若い女性の視点をとらえてパワースポット、農業に関していえば体験農業など、いろんな観光システムがあるので、体験農業で人を呼び込むとか、農家民宿を増やして人を呼び込むとか、もう少し朝日らしい策を盛り込んでほしい。①に観光の根幹を担う人材の育成とあるが、観光の根幹を担う人材とはどういうものか分からない。自分も体験農業を多少やり始めているので、そういう意味では自分もこの人材の中に入るわけだし、この表現が分からないので、もう少し分かりやすくしてもらえるといいと思った。

定住・移住対策の推進に関して三つほど案があるが、定住支援や移住の推進でＵＩＪターンを推進するためにほかの地域では空き家を全国へＰＲして、地域によってはネット環境を田舎でも山でも川の中でもネットが使えるくらいにして、パソコンを使った仕事を誘致するということで実績を上げている地域もあるし、朝日らしいコンセプトを持った誘致の仕方をやってもらえるように、ただ推進するといってもなかなか幅が広くて難しいことなので、絞った表現をしてコンセプトを表現すると面白いと思う。

先日、地域おこし協力隊の田口君が地域おこしをやっているＮＰＯ法人「かみえちご山里ファン倶楽部」を視察してきた。以前から審議会で議題になっている地域コミュニティの負担に密接に関わるような活動で、年４，５千万くらい市の施設の指定管理料をもらいながら、地域おこし活動もしている。ＵＩターン者を１０人くらい抱えて活動しているが、その１０人は県外から来ることによってその家族もその地域に来るし、その地域のいろんな山菜のプロ、キノコのプロ、手仕事のプロ、スキーのプロなどを理事に据えてひとつのＮＰＯを作り、地域の人とＩターン者が一緒の団体として活動しており、食品の配達やお茶のみなど、いろんな行政も手の届かないようなちょっとしたサービスを展開して、農産物の加工とか指定管理でお金を稼ぎながら活動することで、すごくコミュニティの支援に有効なのだと思った。まちづくり塾では勉強会を実施してシェアしたが、朝日庁舎の人たちや地域審議会の人たちとも情報をシェアして学んでいくとすごく役に立つことだと思うので、計画に盛り込むことではないにしろ、みんなで“かみえちご”の活動を参考にして勉強していただけたらと思った。

○　佐藤芳彌会長

　まずは、総合計画を見やすくという意見、いろんな事業を縦割りではなく連携する部分をどう作っていくか、雇用、民間でやるものに、個人の起業も含めて支援するということを強く表現してほしいという点について、事務局のほうから説明を。

○　企画調整課　長南専門員

総合計画を見やすくという意見については、完成版ではできるだけ必要に応じで図やチャートなどを使って分かりやすく心がけたいと思うし、どうしても総合計画については、５ヶ年の市全体の事業を網羅して表現するので、分厚く難しくなってしまうきらいもあるので、それとは別によりわかりやすく簡潔にまとめた普及版のようなものを別刷りにしたり、広報やホームページで市民の皆さんに伝えることができればと考えている。

さまざまな章との関連性がわかりやすくなるようにということだが、最重要課題についてはルネサンス宣言の中で各章に掲げられている施策をまとめた形で掲載しているということが一つと、分野ごとのページについては、現在の文章案では他章他節にも掲載しているという表現にとどまっているが、なお今の意見を参考にして、最終的にどのように文章化すべき検討させていただきたい。

雇用の部分をもう少し強く記載したほうがいいのではないかという意見については、主な施策部分については１行の箇条書きで非常に簡潔な中身になっているが、最終的に文章化する際に現状を踏まえてもう少し強い表現にしていきたいと思うし、関連する部分で「競争力のある企業の集積」の、主な施策として掲げている「地域に根差した企業の事業拡張や競争力の強化」や、「ベンチャー企業の創出育成」、「地域に根差した魅力ある商店街づくり」、こういった部分でふれていきたい。

ナラ枯れの関係で説明を補足させていただくと、ナラ枯れに関しては以前からの課題ということで前期の基本計画でも対策は位置づけたわけだが、なかなか抜本的な対策が難しいという部分もあり、当時は予防対策というのがなかなか進まず拡大が広がっていってどうしても事後対策に終始していたという経過もあった。近年、被害が収束している傾向がみられるということで、事業対策の効果なのか自然環境の変化なのかわからない部分があるが、そういった観点から被害が収束してきているという状況を踏まえて、また再度広がらないようにという意味を込めての予防対策ということが一つと、フェロモン等を活用した予防対策が徐々に開発されてきた状況を鑑みての予防対策という表現にさせていただいているということでご理解いただきたい。

○　佐藤芳彌会長

朝日地域振興計画についても、いろんな質問をいただいた。意見は意見として聞いて、答えられる部分だけ答えていただきたい。

総合計画と振興計画の言葉のすり合わせという質問、朝日地域の小学校も統合になるが個性を生かすということ、アマゾン自然館閉館後の活用策もあった。

産業の振興では、山の恵み、山ぶどうの位置づけ、再生エネルギーを小規模にして農家の収入に関わるよう。六十里越街道では商工会との連携と、人を呼び込む、いろんな言葉の問題とか朝日らしい人材の構想、定住の空き家のネットでの勧誘などがあった。

○　朝日庁舎　石井総務企画課長

今出しているのはあくまでも案なので、いただいた意見については、再度これから振興計画策定に向けて、補強なりしていきたいと考えている。

答えられるところということで、ひとつは“山の恵み”が山ぶどうに限定しすぎではないのかということだが、どうしても朝日の山の恵み特産品というと山ぶどう、月山ワインというイメージが非常に強いので、それを全面的に押し出しているということ。山ぶどうに続く特産物として何があるのかというと、なかなかそれに続くものが具体的に見つからないというのが現実である。山ぶどうを前面に出しているが、当然五十嵐委員が言われたとおり山ぶどうを栽培しているのは限られた農家に過ぎないわけなので、表現について検討させていただきたい。

再生エネルギーについて、農業部門と合わせて考えている。再生エネルギーをハウスに活用するとか、エネルギーを作るだけでなく、活用まで含めて農業経営に生かせないか考えていきたいと思っている。

空き家について、朝日では多く見られるが、相当老朽化した空き家が多くて、若干手直しすれば住めるような空き家が果たしてどの程度あるのか、調査も必要かと思っている。今後空き家は増えることも予想されるが、今住んでいる家についてはある程度下水道が整備されており、利用可能な空き家が多くなると思われる。調査を進めながら、それをどう都会などに情報を流せるのかということも含めて振興計画にもう少し具体的な表現で入れていきたいと思っている。

観光関係については、六十里越街道の関連でいろんな取り組みをされている団体等との連携も取り入れた形で文言を検討させていただきたい。

統合により学校がなくなるが、子どもたちに地域の個性、誇りを持たせる取り組みについては、これから予定されている広域コミュニティの地域活動センターにおいて、積極的に取り入れていければと考えている。

○　佐藤芳彌会長

五十嵐委員からはいろんな方面で貴重な提言をいただいた。これから十分とり入れて検討を加えてほしい。

○　渡部嚴委員

この基本計画の理念が、おそらく段階的には３か年の事業実施計画のローリングで実施されることになり、この理念が実現されていく過程で、直営以外でも例えば補助金、交付金、委託金など、さまざまな方法で実施されていくだろうと思われるが、直営以外の部分で各団体、観光協会、森林組合、ＪＡ、商工会だったり、学校あるいは自治会、体育文化関係の団体や企業など、いろいろ民間団体に物事を委託する形で実現していくことが多いのではないかと思うが、その場合、例えば観光協会にしても森林組合にしても商工会にしても、年々団体として弱小化しているのが実態だと思う。

商工会にしても森林組合でも、統合されてから職員も少なくなっているし、関係団体についてもどちらかというと活性化の方向よりもむしろ逆の方向に行っている場合が多い。したがって、そういう団体の元気がないと実際できないことが多いと思う。ＪＡも含めて団体の育成、活性化も合わせながら事業実施していかないと、それが住民に下りてきたときにどうなのかなと思うので、そのへんとの連携も十分視野に入れて形での事業の組み方というものを構築していただければありがたい。

○　佐藤芳彌会長

地域の活性化のためには民間団体との連携がいろんな場面で出てくると思うが、そのへんの連携をどう構築していくかという部分で一言いただきたい。

○　企画調整課　長南専門員

　渡部委員の意見のとおりだと思うが、団体が弱小しているかどうかというのは一言では判断がつかない部分があり、頑張っている中でもどうしても弱小化していることも場合によってはあるかと思う。最終的に市民の皆さんに不利益が生じないように、市としても関係団体と連携を強化しながら、より支援の強化が必要な部分についてはその団体の動向も踏まえながら具体的な施策を検討していきたい。

○　佐藤宥男委員

　朝日地域振興計画のバイオマス発電の推進と原料の安定供給対策という説明の中にあったペレット、薪ストーブの件で、これは③のバイオマス発電の項目の中に入れるよりも、④としてペレット、薪ストーブの推進と入れたほうがよい。

薪ストーブの原料は朝日の場合いっぱいあるので、私も薪ストーブにしようかと思ったが、自分で作ることができるうちはいいが、その先どうするかということと、将来的には自分で用意できない場合、電話をすれば持ってきてもらえるような安定供給ができるように、ぜひとも項目を新たに立ち上げていただきたい。

○　佐藤芳彌会長

自然エネルギーの関係で豊富にある森林、薪を利用した暖房ということだが、何かコメントあれば。

○　朝日庁舎　石井総務企画課長

ペレット、薪ストーブの推進については本当に大事なことであると考えている。③のバイオマス発電の項目の中にまとめているが、④として項目を起こせないか検討させていただきたい。大事な項目だと思う。

○　上野博喜委員

　山の恵みを生かした複合農業の推進については、非常に大事なタイトルだ。

山ぶどうは非常に大事だが、山ぶどうに限らず、例えば、今悩んでいる雪とともに取り組んでいる促成山菜で、行者にんにくを植えつける圃場がまだまだ不足で、もっと潜在の生産量もほしい、人もほしいという状況なので、もっともっとそういうものに力を入れてもらえればと思う。

それから、在来作物で沖田ナスなども入っているが、生産者も高齢者が多くなって、一部若い人も取り組んでいるものの、もっともっと量もほしいという状態なので、ぜひ生産者団体・農協などと相談をしながら、もっと進める複合農業も取り上げてもらいたい。

 ○　佐藤芳彌会長

　十分、今の意見を検討して取り入れていただきたい。

○　清野清委員

　山ぶどう加工品開発の促進で、栽培農家の減少とあるが、これは高齢化によってはっきりしている。昨年の収量等まだ結果が出ていないので、生産量はどの程度減少するのかまだ把握できないが、後継者育成については、今まで山ぶどう部会あるいは農協で収量を制限しており、新規栽培者もストップ、それから新植もストップしている状況なので、栽培農家の減少は確かだが、片方では製造販売からストップして、行政では後継者育成でどんどん増やすという方針を掲げることは、相反しており栽培者も迷う点もあると思うので、関係機関とよく連携を取って方向性を決めていただきたい。

 ○　佐藤芳彌会長

　ＪＡ庄内たがわも合併して大きくなっているし、いろんな合理化の行政の流れもあるので、信頼関係の中でぜひ連携を取りながら進めていただきたい。

そのほか、まだあると思うが、この素案を整理して気づいたことがあったら事務局に連絡を取っていただきたい。

意見を十分汲んで、この総合計画、朝日地域振興計画に生かしていかなければならないと思うし、計画ができた段階で実行するのは市民であり我々なので、その時点でまた協力をしながらその計画に基づいて頑張っていくということを確認しながら、今日の地域審議会を終わりたい。

大変ご苦労様でした。

4.　その他

5.　閉会

○　佐藤照子副会長

　本日はご苦労様でした。

大変、多面にわたり意見を頂戴したので、今後また両方の計画を立てるのに可能な限り盛り込んでいただき、より充実した内容になればと考えている。

本日はありがとうございました。